

かわまちづくりの普及・推進に向けた研究

Research into the development and promotion of river town planning

水循環・まちづくり・防災グループ	グループ長	清水 晃
水循環・まちづくり・防災グループ	次 長	風間 聡
水循環・まちづくり・防災グループ	次 長	荒木 茂
水循環・まちづくり・防災グループ	主任研究員	阿部 充
水循環・まちづくり・防災グループ	主任研究員	追川 典子
水循環・まちづくり・防災グループ	研 究 員	北澤 史
水循環・まちづくり・防災グループ	研 究 員	佐藤 充人
水循環・まちづくり・防災グループ	研 究 員	仁田原 汀
水循環・まちづくり・防災グループ	研 究 員	梶本 健介

1. はじめに

かわまちづくりは、河川工学や都市計画のみならず、景観、利活用、関係者の意見集約など、多くの要素がある。このため、幅広い知見に触れることで、よりよいかかわまちづくりの実現に資すると考えられる。

そこで、さまざまな分野で研究・実践をされている方々に来ていただき、研究内容を紹介いただくとともに、意見交換を実施することとした。本稿では、令和 7 年度から実施した 4 回の意見交換会の概要を紹介する。

2. 第一回意見交換：近畿大学 飯塚氏

2-1 テーマ

- ・舟運の現状、GIS による分析
- ・英国における運河の現状
- ・3D スキャナによる水辺景観

2-2 意見交換

舟運の可能性、GIS のかわまちへの適用、携帯可能

な 3D スキャナを活用した市民との合意形成、などについて意見交換を実施した。

2-3 考察

舟運の歴史が、GIS というデジタル技術を通じて、より理解が深まった。川沿いを踏査して取得した 3D データで再現することにより空間の把握が容易になるなど、新たな技術を取り入れる必要性が理解できた。

3. 第二回意見交換：大阪公立大学 武田氏

3-1 テーマ

- ・東横堀川における水辺の挑戦
- ・ランドスケープング
- ・エマールブル^{※1}な都市ブリュッセル

3-2 意見交換

住民等とのかかわり、都市計画と住民視点、空間の魅力、利用効果と存在効果、自らつくり出す姿勢、などについて意見交換を実施した。

表－1 意見交換会一覧

開催日	所属等	氏名	テーマ
8 月 27 日	近畿大学 総合社会学部 教授	飯塚公藤	・舟運の現状、GIS による分析 ・英国における運河の現状 ・3D スキャナによる水辺景観
8 月 29 日	大阪公立大学 農学研究科 教授	武田重昭	・東横堀川における水辺の挑戦 ・ランドスケープング ・エマールブルな都市ブリュッセル
10 月 24 日	同志社大学 文化情報学部 准教授	淵上ゆかり	・フューチャー・デザイン 未来志向で 持続可能性を考える
11 月 19 日	和歌山大学 システム工学部 教授	佐久間康富	・浦安市の景観計画 ・住民参加型まちづくりの合意形成手法 ・少人数社会に向けたまちづくり

3-3 考察

まちづくりは効率性を追い求めるのではなく、そこに住まう人々の想い、感性を大切にしながら、時間をかけていくものであるというお話があった。まちづくりには、人々の想いが重要であるとともに時間を要することを改めて実感した。

4. 第三回意見交換：同志社大学 淵上氏

4-1 テーマ

- ・フューチャー・デザイン 未来志向で持続可能性を考える

4-2 意見交換

WS 形式でフューチャー・デザイン※2 を体験した後、住民を対象とした意見交換への応用などについて意見交換を実施した。

4-3 考察

フューチャー・デザインについては、時間の限られた中で、WS 形式で体験し意見交換を実施した。多角的な視点が大切だとは理解していたが、そこに時間軸というもうひとつの視点を加えることができた。特にかわまちづくり等で、住民の方々とお話しをする時に、効果的だと感じた。

5. 第四回意見交換：和歌山大学 佐久間氏

5-1 テーマ

- ・浦安市の景観計画
- ・住民参加型まちづくりの合意形成手法
- ・少人数社会に向けたまちづくり

5-2 意見交換

浦安市景観計画の経緯のほか、少人数社会におけるまちづくりでは、人口の数ではなく人口の構成が重要であること、世代の更新による安心感が必要であることなどについて意見交換を実施した。

5-3 考察

少人数社会に向けたまちづくりは、少子化対策に目が向けられている現状を踏まえると、重要な視点であり、今後のさまざまな施策を考えるときにも有益な考え方であると感じた。

6. まとめ

全4回にわたって開催された今回の意見交換会は、多角的な視点から「かわまちづくり」のあり方等を深く掘り下げる上で、極めて有意義かつ実り多い場となった。都市計画、地理情報、景観形成、フューチャー・デザインあるいは地域コミュニティの形成といった分野の多様な視点や独自の解決手法に直接触れることで、

従来の発想にはなかった新たな視点を獲得できただけでなく、解決すべき潜在的な課題や、今後の具体的なアプローチ方法に関する有益なヒントを数多く得ることができた。

今回の意見交換は、「かわまちづくり」をより広義のまちづくりとして捉え直し、多種多様な立場から柔軟に構想していくための、極めて重要な第一歩になったと確信している。ここで得られた知見やネットワークを、今後の具体的な研究等へ反映させていきたいと考えている。



写真-1 意見交換会の様子

7. おわりに

意見交換にご協力いただいた有識者の方々は、リバーフロント研究所と接点のほとんど無かった先生方であった。しかしながら、突然の依頼にもかかわらず、快く承諾いただいた。ご協力いただいた有識者の皆様に深く感謝いたします。

令和8年度以降も、かわまちづくりを中心としたテーマで、さまざまな観点から有識者の方々と意見交換を行い、かわまちづくりをはじめとしたにぎわいのある地域づくりの推進に寄与していきたい。

※1 エマーブル：フランス語の aimable（エマーブル）とは「愛嬌がある」という意味で、ひとに好かれる性質や付き合いやすい雰囲気のことを指す。

※2 フューチャー・デザイン：様々な課題に対し、現役世代だけでなく、その課題の影響が及ぶ将来世代の立場も踏まえて議論しようという取組みであり、例えば、参加者が将来世代役の立場に立って議論を行うことなどが考えられます。（令和5年2月17日財政審議会資料より抜粋）